

えいらい

No.23

平成 27 年 4 月発行
発行元／一般財団法人永頼会 松山市民病院



〒790-0067 愛媛県松山市大手町 2 丁目 6-5 TEL / 089-943-1151 FAX / 089-947-0026
発行責任者 / 院長 山本祐司 編集 / 松山市民病院広報委員会

新棟完成と受け継がれる理念

～人材育成、職員研修と

多様な働き方への取り組み～

事務長 花本 雄二



日頃は松山市民病院の運営に格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。平成27年度も新しい職員40名を迎えてスタートいたしました。

平成24年3月に着工した新南病棟建て替えの第二期工事もいよいよ最終段階に入ってきました。この完成により、北病棟地下～3階に散在していた放射線室、臨床検査室、心臓血管撮影室、内視鏡室、超音波検査室、透析室、中央処置室と、永頼会館のリハビリテーション室等の診療機能を、新南病棟1～5階西部分にセンター化し集約することができます。手術室も拡充され、完成に合わせて新しい装置や医療機器の導入も行います。これで今以上に患者さんや職員のアクセスや利便性が良くなり、診療機能も高められます。

また、建物全体は採光がよく、明るく、人にやさしい環境に配慮され、今後も長期間の使用に耐えられると見込まれます。既存の北病棟については、新南病棟完成後の移動に伴って順次改修工事を行い、外来診療部門や救急診療部門(ER)の拡充を図る予定です。再生可能エネルギーの活用を含めた省エネ対策についても今後取り組む必要が残されているでしょう。

ソフト面の整備として、昨年は第一期完成に合わせて組織の見直しを行うと同時に、電子カルテやSPDの稼働などIT化を促進し、職員もようやく慣れてきました。今年度も引き続き人材の育成に取り組む予定で、人事考課制度の充実と職員研修制度の刷新を図るよう事務部門から提案しております。

人事考課制度では一昨年より考課者研修を開始し、継続運用できるようにしました。職員研修制度については、監督

職と管理職クラスに分け、階層別に関題解決力、計数管理、労務管理などの養成・研修に取り組み、職員定数に応じた効率的配置に繋がります。

昨年4月からの診療報酬改定や消費増税等の影響を受け、多くの病院が減益傾向にある中、その対応策として人材をより活用するための戦略を立案、実行することが求められています。法人全体の事業方針の立案、部署目標の設定やアクションプランなどの事業計画を作成・活用したコンサルを受け、事務部門を中心とした内部体制の強化に取り組めます。

また近年、結婚・出産・育児・介護など勤労世代のライフステージに応じた多様な働き方ワーク・ライフ・バランスが求められており、看護部や女性職員にはこの問題への意識が高まっています。幅広い職業的スキルも身に付けながら、継続して就業できる環境の在り方を職員とともに工夫し、構築してまいりたいと思います。

協同組合立で開設した「市民による市民のための」病院が、地域住民に未永く信頼される「財団法人永頼会」へと経営母体移行して、昨年はちょうど50年の節目の年でした。その記念事業の企画の中で、病院誕生の契機や開設に関わられた方たちの思いや苦労話、地域の方々からの要望、また市民病院の地域での役割と受け継がれる理念を改めて認識いたしました。

今年の病院スローガン「コミュニケーション(伝達)と継承」のもと、職員一同、多様なテーマに自ら取り組んでまいります。これからも変わらぬご支援、ご指導を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。



撮影：形成外科 / 手塚 敬 (石手 岩塚)